

打つ方も打たれる方も、じっとり汗ばみ、室内に興奮した空気が流れだした。このころになると、もういくら打たれても痛みは感じない。それどころか、からだ中が燃えるような熱い快感に満たされていくのだ。

「このへんでお開きにしましょう」

パトリシアは、一同の上気した顔を眺めまわしながらパーティの終了を告げた。

それから、参加者は夫婦のカップルにもどり、車で家に帰るのである。

「送って下さる？」

最初カップルになった若い女性が、ロンバードにウインクした。

「もちろん、よろこんで」

ロンバードは彼女を自分の車に案内した。しかし運転台にどかかと腰を下したとたん、はれ上がった尻が、思わずとび上がるほどうずいた。助手台にすわった彼女は、痛みに耐えかね、車がゆれるたびに涙をこぼしていた。二人はごく自然に、近くのモーターで結ばれた。

「この夜ほど情熱的なセックスにひたつたことは、いままでになかった。スパンキングの効果も、これほどすばらしいとは思わなかったよ……」

ロンバードは、スパンキングパーティの探訪記を、このように結んでいる。

パドルで行こう！

あまりの快感に汚して……

ロンバードが参加したスパンキングは、倦怠期の夫婦が刺激を求めるために開く、どちらかといえばおだやかなパーティだ。ここで

ッチビレッジでは、「パドルで行こう」という陰語が流行している。パドルというのは、ピンボンのラケットのことである。つまりラケットでスパンキングをしよう——このような意味である。

舞台女優志



■映画「すてきなジェシカ」より

は、ふつ

う集団でゲ

ームを行なう

が、衣服はつけ

たままだし、ワイ

フ・スワッピングや、フリー・セックスのよ

うな乱交は行われない。

だが、若い独身男女のパーティでは、下着

一つ、あるいは全裸のスパンキングがよく行

われる。

ニューヨークの若者たちの溜り場、グリニ

ンキング・パーティを開く。
リーダーは、いつもキムである。
「あたし、小さいころからお尻をぶたれつづけてたの。」

パパがすごくきびしい人で、あたしがいたずらをする、すぐ膝の上にかかえ上げてスパンキングしたわ。二十回も三十回も、お尻に手のあとがつくくらいきつくぶつから、は

じめは痛くてヒイヒイ泣いたけど、そのうちからだ中がじんとしびれて、なんともいえない気持ちになって……。そうね、七才ぐらいのときには、スパンキングが待ち遠しくてわざといたずらしたおぼえがあるわ。

パパも、あたしをスパンキングするのが楽しみだったみたい。あたしのむきだしのお尻をぶちながら、この子はなんてきれいなヒップをしているんだらう、自分の娘でなければ、食べちまいたいくらいだなんてよくいっていったわよ」

キムは、十七才まで父のスパンキングを愛けていた。

「でも、十七才のお誕生日から、スパンキングのとき、バンティだけつけることを許されたわ」

それはキムが、スパンキングの最中に興奮の極に達して、父親のズボンを汚してしまっただからだ。

このようにスパンキングで育てられた若い女性が、性生活でもスパンキングを好むようになるのは当然である。

キムは、同棲をはじめたころ、ボブにスパンキングをせがんだが、そのうち二人だけでは面白味がなくなった。

「あたしたちでき、ぐっと前衛的なスパンキングをやりましたよ」

てなわけで、画家の卵のボブをそそのかし、奇妙キテツな、スパンキングをかかんがえだした。

それは参加者全員ヒップに、大統領の顔だとか悪魔とか、場合によっては器官の一部などを描いて、スパンキングを加えるのだ。道具もパレット、キャンバスなどを動員する。

いってみれば、「前衛絵画スパンキング」とでも呼ぶものだろうか。とにかく、このあとで、セックスはもちろん、楽器演奏、ダンス、などを行なうとすばらしい成果が上がるそうさ。たぶん、スパンキングによって若者たちの体内には、性欲といっしょに、芸術的な意欲が燃え上がるのだらう。

また、街頭で友人同志が出会った場合も、スパンキングで挨拶をするグループもある。

「おはよう」

「最近、どう？」

などといひながら、相手のヒップをいやというほどひっぱたくのだ。これは、高校生などが好んでいる方法だが、相手がかかとの高い靴をはいた女の場合は、気をつけないとこ

ろばせてしまう恐れがある。



■映画「裸女の渦巻」より